

Notes移行を加速させた SharePointワークフローアドオン

ノバルティスファーマ株式会社

スイスに本拠を置くヘルスケアのリーディングカンパニー Novartis社の日本法人であるノバルティスファーマ株式会社。日本主導でスタートしたNotesからSharePointへの移行に際して、SharePointのワークフロー機能を強化し、開発生産性を向上させるために、Nintex Workflow 2007を導入した。

NotesアプリをSharePointに移行 パイロット開発で得た教訓

ノバルティスグループの日本法人であるノバルティスファーマ株式会社が、NotesからSharePointへの移行を決定したのは2008年のことだ。これを機に、移行への準備を開始した。同社が保有するNotes資産は莫大であった。

そこでまず、プロジェクトの本格着手に先立ち、一部のNotesアプリケーションをSharePoint上で開発するというパイロットプロジェクトを実施した。

その結果として、いくつかの課題に直面したという。「SharePoint上でカスタム開発をすることで、Notes

利用時とほぼ同等の要件を満たせるとはいえ、時間もコストもかかりすぎ、今後のバージョンアップ時の対応に問題が起こることが分かってきました。同時に、SharePointの標準機能では、Notes利用時と同様のワークフローを移行するのは難しいという課題も見えました。さらに、SharePoint上のアプリが実際にどのようなUIや挙動を示すのかといったイメージを、ユーザーと共有することが難しく、開発後にトラブルになることも分かりました」とノバルティスファーマの情報システム事業部グループマネージャーであり、SharePointサービス担当の金子昌司氏は当時を語る。

必要とされたのは 開発生産性の高いSharePoint ワークフロー開発ツール

パイロットプロジェクトで見えてきた課題の解決策を模索する中、SharePointのアドオンソフトであるNintex Workflowを検討することになったという。

同社でSharePoint開発サービスを担当している山口真未氏は、

「Nintex Workflowを使ってみると、ドラッグ&ドロップで直感的にワークフローを作成することができました。ワークフローの開発がシンプルかつ簡単になったことで、これまでのカスタム開発から設定によるノンコーディング開発が可能になり、生産性が大幅に向上すると思いました。結果的として、確かにカスタム開発ほどの完全な機能を追求することはできませんが、それでもなおSharePointの標準機能と比べると、十二分なワークフロー機能を備えることができます。さらにSharePointのバージョンアップにも問題が発生しないため、私たちの課題を解決できるだろうと期待をもちました」という。

CASE STUDY OVERVIEW

Nintex Workflow導入の目的

- NotesからSharePointへの移行プロジェクトを実施
- SharePointのワークフロー機能を強化し、開発力及び開発生産性の向上を図る
- SharePointのバージョンアップに対応できるようにする

Nintex Workflow導入の効果

- 開発生産性の向上による開発/運用コストの削減
- より多くのユーザー要件をノンコーディングで実現
- オフショア開発メンバーとのコミュニケーションが改善
- モックアップベースの要件定義によりユーザーとの認識齟齬が減少

導入した製品

- Nintex Workflow 2007 エンタープライズエディション

Nintex Workflow の検討時には、他の SharePoint 用ワークフロー製品やカスタム開発継続との比較も行ったという。グローバルカンパニーであるノバルティス ファーマでは、アプリ開発をオフショアで行うことが前提であり、かつアジア地域を主としたグローバルのユーザーにもワークフローを横展開させたいというニーズがあった。そのため、多言語に対応できるソフトであることが必須であった。最終的には、多言語対応しており、コストパフォーマンスが高く、さらに直感的にワークフローの作成ができ、SharePoint 上での開発生産性を大幅に改善できる Nintex Workflow を前提とした検証を進めることとした。

圧倒的な使いやすさがあらゆるメリットを生んだ

2009 年 10 月、Nintex Workflow の検証版ライセンスを用いて、IT 部内のプロジェクトを四半期毎レビューするためのアプリケーションをトライアルとして開発した。この際に、Nintex Workflow のインストールからユーザーへのサービス提供開始へ要した準備期間は約 2 か月であった。

サービス提供への立ち上げが早いことも Nintex Workflow の特徴である。これは Nintex Workflow が SharePoint の標準ワークフローエンジンを利用しているため、専用サーバーの導入・構築作業を必要としないからである。

また、Nintex Workflow は SharePoint 上でドラッグ&ドロップすることにより、ノンコーディングでロジック

を作成できるため、簡単に修正ができることも準備期間の短縮の要因となった。従来のカスタム開発と比較して、Nintex Workflow を利用することで、特にモックアップの作成スピードが改善されたという。今まで Notes の UI に慣れ親しんでいたユーザーにとって、モックアップは馴染みのない SharePoint 上のアプリの動きや要件を確認するために必要であった。これは、プロジェクトの早い段階で、ユーザーとの認識のズレを無くす必要性をパイロットで痛感していたからだ。

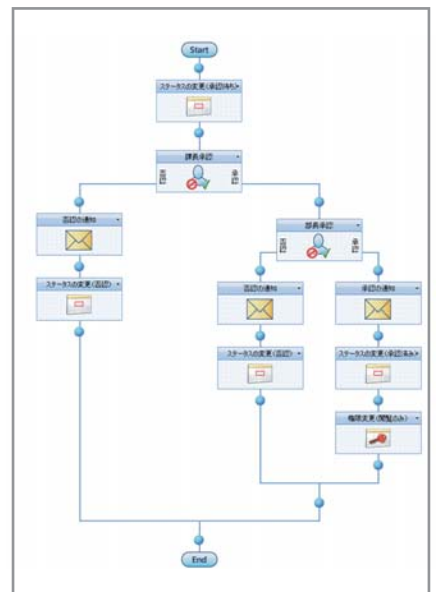
山口氏は、「実際にプロジェクトで使ってみると、ワークフローのロジックを見ることができることによる使いやすさを実感しました。ロジックが見えることで、海外にいるオフショアメンバーとのコミュニケーションもスムーズになりました」と予想外のメリットを語る。

今では Nintex Workflow を用いて、オフショアでのアプリ開発を続々と行っているノバルティス ファーマ。ソフト自身の多言語対応だけではなく、グローバルでのサポート体制や多言語マニュアルを備えていることも、世界 80 ヶ国以上で導入されている Nintex Workflow のメリットであるといえるであろう。

現在同社では、SharePoint2007 から SharePoint2010 への移行を予定している。Nintex Workflow 2007 で作ったワークフローについては上位互換性があるため、移行時の心配がない。SharePoint 2010 に移行後も、今まで通りのユーザーサービスを提供していく予定である。



ノバルティス ファーマ
情報システム事業部 グループマネージャー
金子昌司氏



ワークフローイメージ図

USER'S PROFILE

会社名：ノバルティスファーマ株式会社
 資本金：60億円
 従業員数：4,415名(2010年6月30日現在)
 事業内容：医薬品の開発、輸入、製造、販売
 事業所：本社、工場、営業拠点(全国12拠点)
 売上高：2,977億円(2009年)
 URL：<http://www.novartis.co.jp/>